

令和3年度事業報告書

I 基本方針への対応

基本方針である、森林の中で自然との共生を学び、体験し、様々な形で森林とふれあうライフ・スタイルを創出するフォレスト・エコ・ライフの推進、実践を図り「自然との共生」の普及に寄与するため、公の施設の指定管理者として管理している「ふくしま県民の森」において、各種事業を展開した。

また、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら、引き続き、利用者の利用満足度の向上と質の高いサービスの提供を念頭に運営した。

II 令和3年度 財団中長期計画（平成25年度～令和5年度）の推進状況

(1) 森林学習施設区域利用者数等

新型コロナウイルス感染症拡大のため、様々な活動が制限される中、前年度に引き続き学校の利用が新型コロナウイルス感染症拡大前（コロナ前）と比べ大きく減少したことなどから、森林学習施設区域における利用者数は目標を達成できなかった。

ア 森林学習施設区域利用者数 (単位:人)

年 度	区 分	目標値	実 績	達成率(実績/目標値)
平成25年度	計画始期		12,303	
令和元年度	コロナ前	13,300	14,109	106%
令和2年度	前年度	13,900	6,464	46%
令和3年度	当年度	14,300	6,440	45%

イ 森林館の入館者数 (単位:人)

年 度	区 分	目標値	実 績	達成率(実績/目標値)
平成25年度	計画始期		3,313	
令和元年度	コロナ前	3,300	3,343	101%
令和2年度	前年度	3,700	2,198	59%
令和3年度	当年度	4,100	1,888	46%

ウ 学校・団体利用者数

(単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 25 年度	計画始期		5,108	
令和元年度	コロナ前	5,230	4,317	83%
令和 2 年度	前 年 度	5,490	2,976	54%
令和 3 年度	当 年 度	5,760	2,593	45%

(2) オートキャンプ場区域の利用者数等

令和3年度は、ゴールデンウィークが新型コロナウイルス感染症のいわゆる第4波、夏休みが第5波の期間になるとともに、8月中旬から5日間にわたり臨時休業したことなどから上半期は利用が低迷する時期があったものの、最近のキャンプブームなどでオートキャンプ場の需要は底堅く、年間では目標を達成した。

一方で、近隣の方々が多い日帰り温泉の利用者数は、前年度実績を上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響で接触を避ける意識が強いことや、8月の休業及び3月上旬の温泉ポンプ工事に伴う休止などの影響で、目標を下回った。

ア オートキャンプ場利用者数 (料金対象外の幼児を除く)

(単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 25 年度	計画始期		25,709	
令和元年度	コロナ前	31,500	40,292	128%
令和 2 年度	前 年 度	32,000	28,186	88%
令和 3 年度	当 年 度	32,500	32,954	101%

イ 日帰り温泉利用者数

(単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 25 年度	計画始期		13,598	
令和元年度	コロナ前	14,200	14,338	101%
令和 2 年度	前 年 度	14,400	9,423	65%
令和 3 年度	当 年 度	14,600	10,213	70%

Ⅲ 指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営状況

「ふくしま県民の森」として、施設が設置目的に沿って利用され、公平で質の高いサービスが提供できるよう、「ふくしま県民の森の管理に関する基本協定」や関係法令等を遵守するとともに、諸規程に基づき適切な運用に努めた。

また、利用者が安心して快適に利用できるよう、環境整備や施設の維持管理を行うとともに、災害等の危機管理の徹底を図った。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら、企画・運営能力を発揮し利用者が森林に親しみながら楽しめる事業を展開するとともに、可能な限り利用者の期待に応えられるよう丁寧な対応を行ったほか、事業収入の確保に努めた。

1 オートキャンプ場管理運営事業（公益事業）

オートキャンプ場収入

（単位：千円）

年 度	区 分	収入金額		備 考
令和元年度	コロナ前	101,925		利用者数 40,292 人
令和2年度	前年度	78,406		利用者数 28,186 人
令和3年度	当年度	96,581	前年比 123%	利用者数 32,954 人 前年比 117%

2 県民の森管理受託事業（公益事業）による施設の管理・運営

森林学習施設区域（52.1ha）とオートキャンプ場区域（39.4ha）合計91.5haの「ふくしま県民の森」の施設と緑地について、季節ごとの状況に応じて管理・運営を行った。

（1）施設管理

① 森林学習施設区域

森林館、森林学習館、水道施設、温泉施設、駐車場等を計画的に管理した。

② オートキャンプ場区域

ビジターセンター、サテライトハウス、コテージ、トレーラー等を計画的に管理した。

（2）緑地管理

① 森林学習施設区域

芝生管理や除草、枯損木の除去等を計画的に実施した。特に、令和3年度は、立木（含サクラ）について、枯損木や病害木の管理を重点的に実施した。

② オートキャンプ場区域

道路法面の下刈り、テントサイト周辺の樹木整理等を計画的に実施した。

3 施設の高規格化、老朽化対策

(1) 福島県の財源による対応（県民の森管理受託事業ほか）

- ・ビジターセンター
女子風呂排煙窓修繕、灯油ボイラー室自動エア抜き弁及び配管修繕、
ボイラー室・保管庫煙感知器更新、事務室LED照明更新
- ・コテージ
スズメバチ駆除、防蟻処理、スロープ修繕、バルコニー修繕
- ・テントサイト等
サテライトハウス照明センサー付きスイッチ修繕、
野外テーブル・イス修繕、サテライトハウス入り口ガラス戸修繕、
サテライトハウスラインポンプ交換
- ・森林学習施設区域
セラピーコース木柵修繕、セラピーコース看板修繕、
不動沢駐車場トイレ修繕
- ・その他
木質チップボイラー温水管漏水箇所修繕、透水性舗装修繕

(2) 財団の財源（オートキャンプ場管理運営事業（公益事業））による対応

- ・ビジターセンター
薪ストーブ重点メンテナンス、床暖房設備配管系統気密調査・修繕、
灯油ボイラー室ラインポンプ交換、灯油ボイラー修繕、
非常灯バッテリー修繕、女子サウナ放送スピーカー修繕、
内線電話用PKG修繕
- ・コテージ
テラス修繕、建具等修繕、電子レンジ更新、台所レンジフード更新
- ・常設トレーラー
IHクッキングヒーター更新、脱臭機設置、ソファカバー更新
- ・テントサイト等
テーブル・イス修繕、サテライトハウスシンク及びガス台建具修繕
サテライトハウスガス管設備更新、すべり止め用人工芝更新
- ・森林学習施設区域
遊歩道修繕、温泉貯湯槽重点清掃

4 利用者の安全確保対策

- ・強風、豪雨等の自然災害による被害発生防止対策（巡視、誘導等）
- ・大型野生動物（ツキノワグマ、イノシシ）対策のための巡回強化、監視カメラによる観察、森林下層木の伐採、電気柵の管理
- ・スズメバチの巣の駆除やアリ駆除等虫対策
- ・新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインの更新及び感染対策の徹底
- ・定期消防訓練の実施

IV 「県民の森管理受託事業」以外の受託事業（公益事業）

財団の基本理念に沿った事業を、計画通り受託し実施した。

1 福島県農林水産部委託事業

- (1) もりの案内人養成事業
もりの案内人養成講座の運営（受講者数20人）
- (2) 森林ボランティアサポート事業
情報誌の発行（2回）、森林整備道具貸出、スキルアップサポート、森林ボランティア育成研修、情報発信
- (3) グリーンフォレスター養成事業
グリーンフォレスター養成講座の運営（受講者3人）
- (4) 森林文化公開体験事業
森林文化公開体験事業の運営（馬搬及び炭焼きの記録ビデオ作製など）

2 福島県こども未来局委託事業

- (1) 自然あそび事業
主に未就学児を対象とした外遊びや、自然とのふれあい体験（32回）
- (2) 子どもと青年の異世代交流事業
若い世代（県内大学生）の指導力強化のための、自然遊びを通じた子どもとのふれあい活動研修事業（6回）

V 自主事業の実施

1 オートキャンプ場関連事業

- (1) 物品販売・貸付・カフェ事業（収益事業）

キャンプ場利用者の利便性向上のため、物品販売、レンタル品の貸付、カフェ運営の事業を実施した。新型コロナウイルス感染症対策としてキャンプ場利用を制限したことに伴い、前年度実績は上回ったものの、新型コロナウイルス

感染症発生前と比べて事業収入は減少した。具体的な新型コロナウイルス感染症拡大防止対応として、前年度に引き続き、カフェは席数を半分にし、物品貸付はテント等の定番レンタル品の貸付を休止した。

事業収入

(単位：千円)

年 度	区 分	ショップ売上 (物品販売)	カフェ売上	物 品 貸 付
令和元年度	コロナ前	14,436	3,160	3,618
令和2年度	前年度	10,951	1,715	1,244
令和3年度	当年度	12,426	2,054	1,373

(2) FEL制度事業（公益事業）

FELメンバーズの特典としていた平日割引を廃止したことなどにより、登録者数は減少した。

しかし、平日利用者に偏っていた特典に代えて、宿泊ポイント特典を充実させるなど登録者全体へのサービスアップを図ることができたことから、一定の登録者は確保できた。

新規登録及び更新の人数

(単位：人)

年 度	区 分	登 録 者 数	前年からの増減率
令和元年度	コロナ前	1,529	
令和2年度	前年度	1,480	-3%
令和3年度	当年度	1,140	-23%

2 ビジターセンターにおけるサービスの提供

(1) 日帰り温泉の提供（収益事業）

日帰り温泉は、近隣の方の利用が多く、当施設はオートキャンプ場に併設されていて比較的用户が多いこともあり、新型コロナウイルス感染症の影響で行動制限が意識されている状況において、利用者が少ない傾向が続いている。また、8月の休業や3月上旬の温泉ポンプ工事に伴う休止により、日帰り温泉利用者数は、前年度実績は上回ったものの、新型コロナウイルス感染症発生前に比べると減少している。

日帰り温泉利用者数（再掲）

(単位：人)

年 度	区 分	実 績	前年からの増減率
令和元年度	コロナ前	14,338	
令和2年度	前年度	9,423	-34%
令和3年度	当年度	10,213	+8%

(2) キッズプレイス提供（ビジターセンター内）

新型コロナウイルス感染症対策のため、前年度に引き続き休止した。

(3) 森林との共生関連図書の自由閲覧（ビジターセンター）

新型コロナウイルス感染症対策として、席数を減らすなどの対策を講じながら、利用を継続した。

3 環境教育事業（公益事業）

- ・ 災害対応キャンプ普及の活動を実施した。
- ・ F E L助成金交付事業として、N P O法人福島県もりの案内人の会に助成金を交付した。
- ・ ふくしま生き物調査発表会を開催し、主に森林ボランティア向けに、福島大学の学生が県内の生き物の調査結果を発表する機会を提供した。

4 福島県の森林再生に向けた取組

(1) 木質チップボイラーの運用

福島県が設置した「木質チップボイラー」の適切かつ効果的な運用を図るため、関係機関と連携して、安定的に利用できる良質な木質チップの確保に努め運用した。

(2) ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会事務局事業

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の福島県協議会（窓口）としての業務を担い、森林整備等を実施する県内8の民間団体へ、交付金の交付事務や指導、国や県、市町村との調整を行った。

5 植樹緑化事業（公益事業）

サクラ植栽事業（平成27年度まで実施）で植栽したサクラの適切な管理を行うため、施肥や病害枝の除去、除草等の管理を行った。

6 講師等派遣事業

- ・ 大玉村立玉井小学校の総合的な学習講師を担当した。
- ・ 福島県高等学校教育研究会理科部会県南支部研修会の講師を担当した。
- ・ 二本松市民交流センター主催の講演会で講座を担当した。
- ・ もりの案内人養成講座の講師を担当した。

7 調査・研究事業

「自然環境基礎調査事業」として、イノシシ・クマ・ニホンジカの調査などを行った。森林館にクマ・イノシシの生態についてのパネルを設置し通年で一般客向けに情報を提供した。

また、森林環境教育での活用を目的に、人口池での生き物調査を行った。

8 地域振興と社会貢献

(1) 地域振興

① 県内観光地等の振興

県内各地の観光地や近隣の観光施設などを、フロントを中心に案内や紹介を行った。

② 授産施設支援

ビジターセンター、ショップ等における県内授産施設製品の販売を行った。

③ 地場製品の販売促進

農産物や手工芸品などを中心とした地元製品の販売、地元食材等の紹介及び活用を行った。

(2) 社会貢献

令和3年度学校教育利用割引

フォレストパークあだたらオートキャンプ場利用者に対する財団独自の割引を行った。

・学校教育利用割引率 50%

9 令和3年度新型コロナウイルス感染症への対応

利用者及び職員の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年6月に策定した「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を基に、適宜強化を図りながら、対策を講じてきた。

(1) 予約の制限と広報

- 受付や温泉施設における密集状況発生防止のため、提供施設数を11月上旬まで70%に制限(11月中旬以降は、一部施設の冬期クローズ期間となり提供施設数が減少するため、制限はなし)
- 新型コロナウイルス感染症対策を、予約電話や受付時に説明するとともに、ホームページに掲載し呼びかけ

(2) 施設等の使用制限

- 室内子ども遊び場の閉所
- 温泉施設のサウナの休止（11月から再開）
- ロビー及びカフェの座席とテーブルの一部撤去
- テント、シュラフ、毛布等のレンタル休止

(3) ビジターセンターでの対応

- 受付は密を避けるためお客様1名で受付、マスクの着用、手指の消毒の呼びかけ、並ぶ際の間隔を確保
- フロントカウンターやショップレジ等に透明シート設置、換気の実施、受付時に対応人数を増員、利用説明資料を改善
- 温泉施設では、脱衣所の換気、入場者数の調整（空いている時間への誘導、下足置き場の一部封鎖、脱衣籠の一部撤去）
- 受付カウンターやカフェのテーブル、お客様に渡すカードホルダー、自動販売機などを定期的に消毒

(4) 他施設での対応

- コテージ、トレーラーハウスの消毒強化
- テントサイトのサテライト内洗面所への石けん配置 など

(5) 職員の感染症対策

- 執務時のマスクの着用、手の消毒、休憩室での密集と食事時の相席を回避
- 体調不良時は出勤しない、出勤時の体温測定、健康管理のチェック
- 市販の抗原検査キットの配布、感染懸念時の検査の実施・報告